

さいとう健×茂木友三郎×寺島実郎

- 日時：9月28日（日）PM2:00~PM4:00
- 場所：東京理科大学野田校舎（薬学部13号館）
- 参加費 500円（どなたでも自由に参加できます）



VS



VS



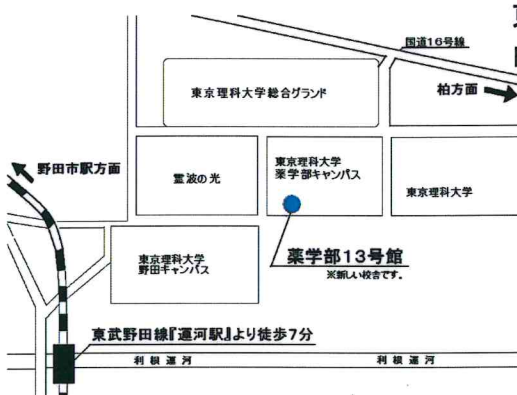
参加申込用紙

お名前	(フリガナ)
	(その他 名)
連絡先	ご住所 (〒 -)
	お電話

FAX.04-7157-6224

東京理科大学へのアクセス

■ 野田市山崎 2641
 定員は 500 名となります。なお、準備の都合上9月26日までに、上記FAXか郵送で申し込み下さい。
 当日の直接来場も可能ですが、立ち見になる場合がございますので、あらかじめご了承下さい。
 駐車場の数が非常に少なくなっております。電車でのご来場にご協力下さい。



※当日は各所に案内係を配置します。

もたくさん絞れます。
 つまり、世界全体の排出量を本当に削減しようとするならば、この中国をはじめとする途上国の排出問題をどうするかということが、一番のポイントだということなのです。
 残念ながら、現在のところ途上国は、これまで地球を破壊してきたのは先進国であり、自分たちが負担をするのはおかしいという主張をしておりませんが、さいとう健は、この議論は、CO2を削減するという本筋から外れた議論だと残念に思っております。
 地球温暖化対策としては、途上国が削減するのが、一番効果があるので、ただ、そのために必要な資金等は、先進国も含めて皆で負担していこうというのが、一番いい方法なんです。
 途上国は、大幅な削減に踏み込んでいかねばならないし、先進国はそのための負担を恐れてはならない。この問題は、こういう方向感で解決していきかないのです。
 今回のサミットは、これだけ複雑で利害の対立の大きな課題について、今まで横を向いていたような国を含め

て全世界で取り組んでいくという方向を作り出したという点では、意義があったと思いますが、問題はこれからです。
 中期目標の設定やセクター別アプローチなど課題は山積みですが、さいとう健は、わが国として大事なことは、温室効果ガスを削減するために本当に有効な策は何かという原点に常に立ち返り、途上国に遠慮することなく、この道を追求してゆくことだと思っております。もちろん、自らの応分の負担も恐れることなく、地球が壊れたら、成長も、そして、生存もないのですから。
 本当は、「原油や食糧価格の高騰問題」も書こうと思っておりましたが、紙数が足りなくなりました。一言で言えば、特に、食糧問題については、多少のコストアップになっても自給率を大幅に向上させるような政策に転換し、自ら脇を締めていかないと日本の将来は危ういのではないかと思います。この点については、改めて書かせていただく機会を作りたいと思っております。



田原氏の発言に会場は緊張の連続 (300名を越える参加をいただきました)

7月6日、田原総一郎氏を招いて第4弾生対談を行いました。田原さんは、人気番組サンデープロジェクト終了後に駆けつけてくれました。田原さんの魅力は何と言っても、皆さんが感じる政治の疑問や問題点をわかりやすく、タイムリーにお伝えする話術や、政治家から本音を引き出す鋭い質問にあると思います。当日は、総選挙の時期や政界再編にまで言及したこともあり、場内は緊張の連続でもありましたが、多くの方にお楽しみいただけたのではないかと思います。

田原総一郎氏と生対談！

さいとう 健 メールマガジン配信中！ ※ホームページからご登録できます。 詳しくは <http://www.saito-ken.jp> をご覧下さい。